

令和4年度
シラバス



第1学年

北海道天売高等学校

目 次

・目次/シラバスとは	裏表紙
・令和4年度入学者教育課程表	1
・第1学年	
1. 『現代の国語』	2
2. 『言語文化』	4
3. 『地理総合』	6
4. 『数学Ⅰ』	8
5. 『科学と人間生活』	12
6. 『体育』	15
7. 『保健』	17
8. 『英語コミュニケーションⅠ』	19
9. 『家庭総合』	22
10. 『情報Ⅰ』	24
11. 『水産海洋基礎』	26
12. 『天売学』	28

★シラバスとは？

「シラバス」とは、学校で行われる授業の年間学習案内です。これから1年間を通じて授業で「何を、何のために、いつ、どう学び、どのように評価されるのか」を生徒の皆さんや、保護者並びに地域の方々に説明するためのものです。

「シラバス」により、学校でどのような勉強をしているかがわかります。ご家庭での進路相談などに役立てていただければ幸いです。

★シラバスをどう活用すれば良いのでしょうか？

高校生活はわずか3年～4年です。本校生徒の皆さんは昼間働き、夜に貴重な時間を費やして学びにきています。ですから限られた時間を有効に活用することが大切です。

言うまでもなく、日常の学習活動の基本は学校の授業です。「シラバス」を確認することによって、1年間の授業の進捗や内容が事前に分かるので、先を見通した学習計画を立てられます。また、学校の学習以外にも、進学のために添削指導が必要で、そういった指導をぜひ受けたいという人もいることでしょう。効率よく学習を進めるには、学校の授業やそれ以外の学習を計画的・継続的に、上手に組み合わせることでいくことです。

「シラバス」は、生徒の皆さんが主体的に学ぶ手助けをする「学びのナビゲーター」です。「シラバス」を参考にして、それぞれの自己実現へ向けて第一歩を踏み出してください。

令和4年度入学生・3修コース

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1年	現代の国語		言語文化		地理総合		数学Ⅰ			科学と人間生活		体育			保健
2年	文学国語		公共		数学Ⅱ		数学A		生物基礎		体育			保健	書道
3年	文学国語			歴史総合		数学Ⅱ			体育			書道	英語コミュニケーションⅡ		情報処理
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1年	英語 コミュニケーションⅠ			家庭総合		情報Ⅰ		水産海 洋基礎	天売学	総合
2年	英語コミュニケーションⅡ		論理・表現Ⅰ		家庭総合		情報処理	水産海 洋基礎	天売学	総合
3年	選択A 国語探究 数学研究 ネットワーク活用		選択B 政治・経済 フードデザイン 簿記		選択C 化学基礎 論理・表現Ⅱ 課題研究			水産海 洋基礎	天売学	総合
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25

科目名	現代の国語	学年	1	単位数	2
教科書	新編 現代の国語（東京書籍）	副教材	新総合図説国語		

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
-------	---

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようとしている。
②思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	観 点											
		定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発言 発表	リーフ レット	レポ ート	ノ ー ト	ワー ク シ ー ト	討 議	学 習 課 題	休 業 中 課 題
①知識・技能		◎	△	◎	△					○		○	○
②思考・判断・表現（話すこと・聞くこと）			△	△		◎				○	◎	○	
②思考・判断・表現（書くこと）			△	△				◎		◎		○	○
②思考・判断・表現（読むこと）		◎	△	△		○		○	○	◎	○	○	○
③主体的に学習に取り組む態度			△	△		○	◎	○	○	○	○	○	○

1 学習の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

2 学習の方法

- (1) 予習について
漢字の小テストがある場合はその勉強をしておきましょう。他にある場合は、適宜指示を出します。
- (2) 授業について
ノート、ワークシートへの記述をしっかりと行うとともに、授業内の活動に積極的に取り組むようにしましょう。
- (3) 復習について
ノートやワークシート、教科書を見直し、振り返りを行ってください。また、それをもとに日常の言語使用にも目を向けてください。

〈学習アドバイス〉

- 単元によって様々な活動（発表、作文など）を行います。その時の指示に従い、積極的に取り組むようにしてください。
- 授業内だけでなく、日常の言語使用も視野に入れて学習に取り組むことを意識しておくことさらに力が付きます。

3 授業計画

月	単 元	学 習 内 容	評 価 の 観 点
4	「こそそめスー プ」	・筆者独自の考え方を読み取り、ひとそれぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。

	「ルリボシカミキリの青」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。 ・情報を整理し、内容や構成に注意して話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。
5	「気になるニュースについて話そう」		
	「未来をつくる想像力」	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
6	「水の東西」	<ul style="list-style-type: none"> ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・情報を集めて検討し、構成を工夫して意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。
	「集めた情報の内容を検討して意見文を書こう」		
7	「分かりやすい説明をしよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や相手に合った分かりやすい説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。
	「異なる種類の文章を読み比べよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の文章を読み比べ、自分の考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
8	「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
9	「無彩の色」	<ul style="list-style-type: none"> ・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。 ・話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。
	「情報を整理しながら話し合おう」		
10	「鍋洗いの日々」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
	「森で染める人」	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
11	「真夏のひしこ漁」	<ul style="list-style-type: none"> ・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
	「憧れの職業について調べ、整理してまとめよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを整理して、考えたことを分かりやすくまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。
12	「発想を広げる方法を使って話し合おう」	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げてアイデアを整理し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。
	「新聞記事を読んで意見文を書こう」	<ul style="list-style-type: none"> ・記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。
1	「美しさの発見」	<ul style="list-style-type: none"> ・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
	「りんごのほっぺ」	<ul style="list-style-type: none"> ・出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
2	「アドバイスを生かして紹介文を書こう」	<ul style="list-style-type: none"> ・助言をもとに推敲して、よりよい文章に仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。
	「不思議な拍手」	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
3	「真の自立とは」	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
	「資料を活用して発表しよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。

※紙幅の都合上、【思考・判断・表現】のみを取り上げ、その中の「話す・聞く」、「書く」、「読む」の3領域について言及しています。

科目名	言語文化	学年	1	単位数	2
教科書	新編 言語文化（東京書籍）	副教材	新総合図説国語		

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
-------	--

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
②思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	定期	単元	小	実技	発言	リーフ	レポ	ノート	ワーク	討議	学習	休業中
		考査	テ	テ	実	発	レ	ポ	ノ	シ		課	課
①知識・技能		◎	/	◎	/					○		○	○
②思考・判断・表現（書くこと）			/		/			◎		◎		○	○
②思考・判断・表現（読むこと）		◎	/		/	○		○	○	◎	○	○	○
③主体的に学習に取り組む態度			/		/	○	◎	○	○	○	○	○	○

1 学習の目標

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

2 学習の方法

(1) 予習について

漢字の小テストがある場合はその勉強をしておきましょう。他にある場合は、適宜指示を出します。

(2) 授業について

ノート、ワークシートへの記述をしっかりと行うとともに、授業内の活動に積極的に取り組むようにしましょう。

(3) 復習について

ノートやワークシート、教科書を見直し、学習の振り返りを行ってください。また、それをもとに日常の言語使用にも目を向けてください。

〈学習アドバイス〉

- 単元によって様々な活動（発表、作文など）を行います。その時の指示に従い、積極的に取り組むようにしてください。
- 古典の内容は難易度が上がります。わからないところを残さないように、予習、復習に取り組むようにしましょう。
- 授業内だけでなく、日常の言語使用も視野に入れて学習に取り組むことを意識しておくことさらに力が付きます。

3 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	「さくらさくら さくら」 「美しい」ということ	<ul style="list-style-type: none"> 引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 筆者の経験と分析について理解し、「美しい」ということについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。
5	「古文に親しむ」 「児のそら寝」 「用光と白波」	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。 歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 文語の品詞について理解し、登場人物の心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。
6	「訓読の基本」 「故事成語」 「とんかつ」	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。
7	「雨漏りの音」 「徒然草」	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心の動きを読み取り、人間関係の在り方について考える。 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。
8	「枕草子」	<ul style="list-style-type: none"> 作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。
9	「柳あをめる」 「雪の深さを」	<ul style="list-style-type: none"> 短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。 俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。
10	「冬が来た」 「少年の日」 「I was born」 「折々のうた」 「短歌を作る」	<ul style="list-style-type: none"> 日頃耳にする歌謡曲の歌詞にも見られる表現技法について知り、韻文への理解を深める。 詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。
11	「絶句と律詩-七首」 「羅生門」	<ul style="list-style-type: none"> 元の漢詩の魅力が効果的に伝わるように、表現を工夫して訳詩を書く。 極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。
12	「伊勢物語」 「平家物語」	<ul style="list-style-type: none"> 歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。
1	「論語-八章」 「夢十夜」	<ul style="list-style-type: none"> 孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。 表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。
2	「デューク」 「奥の細道」	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。 地域の文学碑を調べ、集めた材料を吟味し、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。
3	「史話-3編」	<ul style="list-style-type: none"> 好きな人物を選び、調べて得た情報を的確に整理して、人物像が伝わるポスターを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。

※紙幅の都合上、【思考・判断・表現】のみを取り上げ、その中の「書く」、「読む」の2領域について言及しています。

科目名	地理総合	学年	1	単位数	2
教科書	高等学校 新地理総合（帝国書院）	副教材	新地理ワークノート		

科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
-------	---

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。
②思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に「追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民の責任を果たそうとする

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	評価項目											
		定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	学習 課題	休業中 課題
①知識・技能		○				○				○	○		
②思考・判断・表現		○				○				○	○		
③主体的に学習に取り組む態度		○				○				○	○		

1 学習の目標

- (1) 中学校での授業や他教科で身につけた知識をもとに、現代世界の諸課題を地理的に考察し、世界認識を深める。
- (2) 従来の地理的事象に対する考え方にとらわれず、様々な疑問をもって自分の考えや意見をまとめて表現する

2 学習の方法

(1) 予習について

授業で学んだことを現代と結び付けるために、新聞やニュースを見て社会の動きに触れて下さい。分からないことがあれば遠慮なく質問しましょう。

(2) 授業について

それぞれの単元ごとに中心となる課題を意識して授業を受けましょう。

(3) 復習について

ア 何を勉強しているのかわからなくなった時は、単元を意識して学習してください

イ 考査は授業で扱った内容を中心に出題します。予習・復習も大切ですが、何よりも授業を重視して下さい。

〈学習アドバイス〉

- ・とにかく「地図」が重要な科目です。地図帳は絶対に忘れないでください。
- ・思ったことをどんどん発表しましょう。間違っていてかまいませんので、自分の頭の中で終わらないようにしましょう。
- ・グループワークで話し合いをするときは、他人の意見を尊重しましょう。自分の意見と違っていても否定せず、1つの考えとしてとらえた上で、自分の意見を主張しましょう。

3 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	地球上の位置と国家	オリエンテーション 地上の現象と地球上の位置 球面と平面の世界 国家の領域と国境・領土問題	③地理的技能を身につけるために、諸資料を適切に収集・選択し、その内容を図表などにまとめたりしている。
5	グローバル化が進む世界	結びつきを強める現代世界・拡大する貿易 世界を結ぶ交通・通信	①地理情報の地図化などの活動を通して、地理情報と地図に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
	人々の生活と地形	世界の大地形と人々の生活 山地・平野の地形と人々の生活 海岸地形・氷河地形・カルスト地形	④世界の地形について、分布や人間生活との関わりなどを理解し、その知識を身につけている。
6	(前期中間考査) 人々の生活と気候	生活と気候の関わり 熱帯の気候と人々の生活 乾燥帯の気候と人々の生活 温帯の気候と人々の生活	③世界の気候に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
7	人々の生活と産業・文化	生活を支える世界の農業 生活を支える世界の工業 生活と宗教・言語の関わり	①世界の産業や宗教に関する諸事象の分布や民族と国家の関係などに関する考察を基に、産業・宗教に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
8	中国の生活・文化	中国の自然環境・歴史と社会 13億人の職を支える農業と農民 急伸する工業と資源・環境	②中国について、歴史的背景を踏まえた地域の変容や構造を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
9	(前期末考査) 韓国の生活・文化	朝鮮半島の自然環境と歴史・民族 産業の発展と生活の変化	①朝鮮半島にみられる地域的特色に関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
	東南アジアの生活・文化	東南アジアの自然環境と歴史・民族 東南アジアの産業とASEAN	②東南アジアの諸地域について、それらの地域に見られる地域的特色を多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
10	インドの生活・文化	南アジアの自然環境と歴史・民族 南アジアの産業の発展	③インドなどの南アジアに関する諸資料を適切に収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表などにまとめたりしている。
	西アジア周辺の生活・文化	西アジア周辺の自然環境・歴史・民族 豊かな石油資源と人々の生活	①西アジア周辺諸地域にみられる地域的特色に関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
11	ヨーロッパの生活・文化	ヨーロッパの自然環境と歴史・民族 ヨーロッパの統合と課題・影響 ヨーロッパの農業と共通農業政策 ヨーロッパの工業とその変化	③ヨーロッパに関する諸資料を適切に収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表などにまとめたりしている。
12	(後期中間考査) 北アメリカの生活・文化	北アメリカの自然環境と歴史・民族 大規模な農業とアグリビジネス 北アメリカの鉱工業とその変化	②アメリカ合衆国を中心とする北アメリカの諸地域について、歴史的背景を踏まえた地域の変容や構造を多角的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
1	南アメリカの生活・文化	南アメリカの自然環境と歴史・民族 南アメリカの産業と変化・発展	④南アメリカについて、歴史的背景を踏まえた地域の変容や構造を理解し、その知識を身につけている。
	オーストラリアの生活・文化	オセアニアの自然環境と歴史・民族 自然を生かした輸出中心の産業	④オーストラリアを中心とするオセアニアについて、歴史的背景を踏まえた地域の変容や構造を理解し、その知識を身につけている。
2	地球的課題と私たち	さまざまな環境問題・熱帯林の破壊 地球温暖化の現状と対策 世界の資源・エネルギー問題 世界の人口問題 世界の食料問題 世界の都市・居住問題	①地球的課題と人間生活との関わりなどに関する考察を基に関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究しようとしている。
3	(後期末考査) 身近な地域の課題		①直接的に調査できる地域に関する地図の活用と地域調査に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【資料活用の技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	数学Ⅰ	学年	1	単位数	3
教科書	東京書籍「新数学Ⅰ」	副教材	東京書籍「ニューファースト 新数学Ⅰ」		

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	定期	単元	小	実技	発言	作品	レポ	ノート	ワーク	討議	学習	休業中
		考査	テ	テ	実	発	作	ー	ト	シ	議	課	課
①知識・技能		◎	○	○								○	○
②思考・判断・表現		◎	○	○		○			○			○	○
③主体的に学習に取り組む態度						○			○			○	○

1 学習の目標

- (1) 中学校までの数学をベースに、数学Ⅰの内容の基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指します。
- (2) 数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身につけ、それらを実生活で活用できるようになることを目指します。

2 学習の方法

(1) 予習について

ア 教科書を読むくらいの予習が望ましいです。自分の理解できるところとできないところをはっきりさせて授業を受けましょう。

(2) 授業について

ア 教科書をベースに進めていきます。必要なことは板書以外でもメモを取りましょう。

(3) 復習について

ア 授業で扱った問題は家庭学習で再度解き直しましょう。

イ 授業で消化できなかったプリントの残りの問題は宿題として、家庭学習でしっかりやりましょう。

〈学習アドバイス〉

- 「どう考えればうまくいきそうか」など数学的な見方や考え方を常に意識しながら授業を受けましょう。
- 間違ってもどこが間違ったかを明らかにさせることで、理解が深まります。わからぬ所はどんどん質問しましょう。

3 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	1章 数と式	1節 文字と式 1. 文字を使った式 2. 多項式と単項式	①文字を使った式の表し方の約束について理解している。 ①単項式, 単項式の次数, 係数, 多項式, 項, 定数項, 同類項, 多項式の次数, n 次式など, 式についての用語の意味を理解している。
5		3. 多項式の計算 (1) 4. 多項式の計算 (2) 5. 乗法公式 6. 因数分解 (1) 7. 因数分解 (2) 8. 展開, 因数分解のくふうと利用	①多項式の加法・減法の仕組みを理解し, 加法・減法の計算をすることができる。 ①指数法則や分配法則を用いて, 多項式を展開することができる。 ①乗法公式を用いて式を展開することができる。 ②乗法公式のつながりを考察することができる。 ①因数分解の公式を利用して, 式を因数分解することができる。 ① x^2 の係数が1以外の多項式を因数分解することができる。 ①式の一部を1つの文字に置き換えて, 多項式を展開, 因数分解することができる。 ②乗法公式や因数分解の公式と関連させながら, 式の一部を1つの文字に置き換え, 見通しをもって展開, 因数分解することを考察することができる。 ③多項式の乗法の計算方法を振り返って, 工夫して式を展開しようとしている。
6	(前期中間考査)	2節 実数 1. 平方根 2. 混合を含む式の計算 3. 数の分類 4. 分数と小数	①平方根について理解している。 ①平方根の意味や性質を理解し, 根号を含む式の計算や分母の有理化をすることができる。 ①自然数から実数までの数の体系を理解している。 ③2つの自然数どうしの四則演算の法則について興味をもって考えようとしている。 ①有限小数, 循環小数について理解している
7		3節 方程式と不等式 1. 1次方程式 2. 不等式 3. 不等式の性質 4. 不等式の解 5. 不等式の解き方	①循環小数を記号を用いて表すことができる ①等式の性質や方程式の解の意味を理解し, 1次方程式を解くことができる。 ②身近な問題を解決することに1次方程式を活用することができる。 ①不等号の意味を理解し, 数量の大小関係を不等式で表すことができる ①不等式が表す数の範囲を数直線上に図示することができる。 ①不等式の性質を理解している。 ②不等式の性質を等式の性質と対比して捉えることができる。 ③文字を含む数を数直線上に表す活動を通して, 不等式の性質について考えようとしている。
8		6. 2次方程式とその解き方 7. 2次方程式の解の公式	①不等式の解の意味を理解している。 ①不等式の性質を用いて不等式を解くことができる ②不等式の解き方を1次方程式の解き方と対比して捉えることができる。 ①不等式の性質を用いて不等式を変形し, 解くことができる。 ②身近な問題を解決することに不等式を活用することができる。 ③身近な問題を解決することに不等式を活用しようとしている。
	2章 2次関数	1節 2次関数とグラフ 1. 関数 2. 1次関数とそのグラフ 3. 2次関数とそのグラフ 4. グラフの平行移動 5. $y = ax^2 + bx + c$ のグラフ	①2次方程式の解の意味を理解し, 平方根の考え, 因数分解を用いて2次方程式を解くことができる。 ①解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。 ①関数について理解している。 ①関数の値を求めることができる。 ②ともなって変化する2つの数量の関係について考察することができる。 ①1次関数について理解し, そのグラフをかくことができる。 ①2次関数について理解している。 ①関数 $y = ax^2$ のグラフをかくことができる。 ②具体的な事象を数学的に捉え, 2次式で表すことができる。 ①2次関数のグラフを, 関数 $y = ax^2$ のグラフを平行移動することでかくことができる。 ①2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフを, 式を $y = a(x-p)^2 + q$ の形に変形することによってかくことができる。 ②2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ の係数とそのグラフの形や位置の関係について, コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 ③2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ の係数とそのグラフの形や位置の関係について関心を持ち, 考察した結果を2次関数のグラフをか

9	(前期期末考査)	2節 二次関数の値の変化	くことに活用しようとしている。
		1. 二次関数の最大値・最小値	
10		2. 二次関数のグラフと2次方程式	①2 次関数の最大値・最小値を 2 次関数のグラフと関連づけて理解し、求めることができる。 ①定義域に制限がある場合の最大値・最小値を求めることができる。 ②2 次関数の最大値・最小値についてグラフを用いて考察することができる。
		3. 二次関数のグラフと2次不等式	②最大・最小に関する身近な問題を 2 次関数の問題として捉え、考察することができる。 ③2 次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に 2 次関数のグラフや最大値・最小値を活用しようとしている。
		4. いろいろな2次不等式	①2 次関数のグラフと 2 次方程式の解の関係を理解し、グラフと x 軸の共有点の座標を求めることができる。 ②2 次関数のグラフと x 軸の位置関係について、2 次方程式の解に対応させて考察することができる。
			①2 次関数のグラフと 2 次不等式の解の関係を理解し、2 次関数のグラフを用いて 2 次不等式を解くことができる。 ②2 次不等式の解について、2 次関数のグラフを用いて考察することができる。 ③2 次不等式の解の考察に、2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を活用しようとしている。
11	3章 三角比	1節 鋭角の三角比	①相似な三角形の性質を理解し、辺の長さを求めることができる。 ①三平方の定理を理解し、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 ①タンジェントの意味を理解し、直角三角形の辺の長さからその値を求めることができる。 ②相似の考え方をを用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。 ①サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形において、その値を求めることができる。 ①30°, 45°, 60°の三角比の値を求めることができる。 ②相似な三角形において、三角比が三角形の大きさに関係なく、ある角に依存していることを考察することができる。 ①三角比の表を活用して三角比の値や角度を求めることができる。 ③日常の事象や社会の事象などの解くことにより、三角比の有用性を認識しようとしている。 ①三角比の相互関係を用いて、1 つの三角比の値から他の 2 つの三角比の値を求めることができる。 ①90° - Aの三角比の値を求めることができる。
		1. 三角形	
		2. タンジェント	
		3. サインとコサイン	
		4. 三角比の利用	
		5. 三角比の相互関係	
12	(後期中間考査)	2節 三角比の応用	①与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求めることができる。 ①正弦定理を理解し、定理を利用して三角形の辺の長さを求めることができる。 ③三角形の辺や角の関係から、正弦定理について考察しようとしている。 ①余弦定理を理解し、定理を利用して三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ①座標を利用して0°から180°までの角の三角比を求めることができる。 ①角が鈍角の場合でも、三角比の相互関係が成り立つことを理解している。 ①180° - θの三角比の値を求めることができる。 ②座標平面上に直角三角形を見いだすことによって、角が鈍角の場合でも三角比の相互関係が成り立つことや180° - θの三角比について考察することができる。 ①角が鈍角の場合でも、三角形の面積の公式、正弦定理、余弦定理を用いて、三角形の面積や辺の長さを求めることができる。 ②空間図形に含まれる三角形に着目して三角比や定理等を活用し、図形の計量の問題について考察することができる。 ③日常の事象や社会の事象の中に三角形で構成された空間図形を見いだし、その空間図形の計量に三角比を活用しようとしている。
		1. 三角形の面積	
		2. 正弦定理	
		3. 余弦定理	
		4. 鈍角の三角比	
		5. 三角比の相互関係	
1	5章 データの分析	1節 データの分析	①統計的探求プロセスを意識した問題解決の活動について理解している。 ③身近なデータを分析する過程を通して、統計的探求プロセスを意識した問題解決の活動について理解しようとしている。 ①データや階級、度数、階級値、度数分布表、累積度数、ヒスト
		1. データにもとづいた問題解決の進め方	

2		2. データの特徴の調べ方	グラム、相対度数、累積相対度数の定義や意味を理解している。
		3. 代表値	①目的やデータに応じて、度数分布表、ヒストグラムなどに表すことができる。
		4. 四分位数と箱ひげ図	①データの特徴を 1 つの数値によって表せることを理解し、平均値、中央値、最頻値などの代表値を求めることができる。
		5. 分散と標準偏差	①外れ値を見出す意義を理解している。
		6. 相関関係	①四分位数、四分位範囲の定義や意味を理解している。
		7. 相関係数	①箱ひげ図に表すことができる。
		8. データにもとづく考え方	①分散、標準偏差を理解し、それを求めることができる。
3	4章 集合と論証 (後期期末考査)	1節 集合と論証	①相関関係について理解している。
		1. 集合	①2 つの数量の関係を散布図や相関係数を用いて表すことができる。
		2. 命題と集合	②相関関係を調べることで、複数の数量について、強い関係があるのはどれとどれかを判断することができる。
		3. 命題と証明	①仮説検定の考え方を理解している。
			②③不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。
			①部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方や用語を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。
			②集合をベン図で表すことで、集合とその要素との関係や、集合と集合の関係について考察することができる。
			③身近なものを分類することを通して、集合の概念を理解しようとしている。
			①命題の真偽を調べたり、偽である場合には反例をあげたりすることができる。また、条件の否定を述べることができる。
			①必要条件や十分条件の意味や記号について理解している。
			②集合の包含関係に関連付けて、命題の真偽を考察することができる。
			①命題の逆・裏・対偶について、基礎的な知識を身に付けている。
			③身近な問題を論理的に考察することを通して、背理法の考え方を理解しようとしている。

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。

科目名	科学と人間生活	学年	1	単位数	2
教科書	改訂 科学と人間生活(東京書籍)		ニューサポート 改訂 科学と人間生活(東京書籍)		

科目の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術と人間生活とのかかわりについての理解を深め、観察・実験などに関する技能を身に付け、人間生活と関連づけて科学的に探究する力を養う。また、自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
-------	---

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、観察・実験などを通して理解し、知識を身に付けている。また、その基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。
②思考・判断・表現	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について問題を見いだし、観察・実験などを通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について興味・関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	定期	単元	小	実技	発言	作品	レポ	ノート	ワーク	討議	学習	休業中
		考査	テスト	テスト	実習	発表		ート	シート		課題	課題	
①知識・技能				◎	◎					○			
②思考・判断・表現				○		○		◎	○	◎	◎		
③主体的に学習に取り組む態度					○	◎		○	◎	○	○	○	○

1 学習の目標

- (1) 身近な事象・現象に関する観察・実験などを通して、科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて理解を深め、科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養う。
- (2) 現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活とのかかわりについて考察し、人間社会が抱える諸問題解決につながる科学的な知識、能力、態度を身につける。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 特に必要なし。
- (2) 授業について
 - ア 黒板の板書などをノートやワークシートにまとめながら、説明を理解しましょう。
 - イ 口頭による説明などをよく聞き、自分なりに説明できるようにしましょう。
- (3) 復習について
 - ア 授業後、ノートやワークシート、教科書などを用いて授業の内容が理解できたか確認しましょう。
 - イ 問題集を用いて授業内容の確認を、実際に問題を解きながら確認しましょう。

〈学習アドバイス〉

私たちの身の回りの自然現象について「どうして?」「なぜ?」と問いを立てて考えてみましょう。また、自然現象から見出された法則が人間生活にどのように活かされているか考えながら授業に取り組みましょう。
板書を写すだけでなく、担当教員の説明の中で重要だと思う点をメモしながら授業に参加しましょう。

3 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	プロローグ 科学技術の発展		③科学技術発展の歴史について理解している。
5	1編 生命の科学 2章 微生物とその利用	1 さまざまな微生物 A さまざまな微生物 B 病原体としての細菌やウイルスの発見 C 生態系のなかでの微生物の役割	①生態系での微生物の分解者としての役割を理解している。 ②微生物の存在と人類の関わりについて、その発見の歴史と利用に関する技術、感染症などの害悪を理解して考えることができる。 ③微生物発見の歴史や様々な微生物の存在について興味をもつ。
6			
7	(中間考査)	2 微生物と人間生活のかかわり A 発酵と人間生活 B 微生物と健康 C 微生物と医療	①微生物を利用した発酵や医薬品の生産について説明できる。 ②微生物と発酵、腐敗を関連づけて考えることができる。 ③微生物と人間生活とのかかわりについて関心を持ち、意欲的に探究しようとする。
8	2編 物質の科学 2章 衣料と食品	1 衣料 A 繊維の種類や性質 B 繊維の製法や利用	①繊維それぞれの特徴から、天然繊維と化学繊維との違い、製法や採取法を理解している。 ②繊維の分類、特徴、用途、採取・合成のしかたなどについて、考えることができる。 ③日常生活にかかわりの深い衣料について関心をもつ。
9		2 食品 A ご飯やパンの成分 B 肉や豆腐の成分 C 油やバター成分 D 食の安全	①成分の構造や性質、消化、検出法、また食品の腐敗や劣化の対策について理解している。 ②身近な食品の主成分に含まれる栄養や、体内での消化・吸収、食品の安全対策について、考えることができる。 ③身近な食品中の主成分の性質について興味をもつ。
10	(期末考査)		
10	3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利用	1 熱と何か A 原子・分子の熱運動 B 温度 C 熱の伝わり方 D 熱量と比熱 E 熱量の保存	①熱運動と温度の関係について考え、熱量の保存と様々な熱の発生についてわかる。 ②実験を通して熱伝導率の違いを理解し、レポートにまとめることができる。 ③熱容量と比熱の違いについて理解し、様々な物質の比熱の違いを利用しているものを調べようとする。
11		2 熱と人間生活 A 熱エネルギーと力学的エネルギー B ほかのエネルギーから熱エネルギーへ C 熱エネルギーからほかのエネルギーへの変換 D 冷たいものから熱いものへと熱	①色々なエネルギーの相互変換とエネルギー保存の法則の関係について理解し、エネルギーの効率的利用についてわかる。 ②エネルギー変換と保存及び有効利用について説明できる。 ③熱機関とその熱効率、及び熱現象の不可逆性について説明できる。 ④熱の性質やエネルギーの移り変わりなどに

		を移動させるには E エネルギーの利用	ついて調べようとする。
12	(中間考査) 4編 宇宙や地球の科学	1 身の回りの景観の成り立ち	①山脈や火山ができるしくみや、水の流れがつくる地形、生物がつくる地形などを理解している。
1	2章 身近な自然景観と自然災害	A 地球がつくる自然景観 B 太陽がつくる自然景観	②自然景観が形成されるしくみについて、考えることができる。 ③様々な地形による景観の成立過程について調べようとする。
2		2 自然災害と人間	①災害などが発生するしくみとこれまでの日本での被災事例、被害を最小限に抑える対策などを理解している。
		A 地震・津波による災害 B 火山噴火による災害 C 気象による災害 D 災害から命や社会を守るために	②災害などがもたらす被害とその原因、それらから身を守る対策について、考えることができる。 ③自然災害とその対策について関心をもち、意欲的に探究しようとする。
3	(期末考査) 5編 課題研究		③自然や科学技術と人間生活との関わりについて関心をもち、意欲的に探究しようとする。

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。

科目名	体育	学年	1	単位数	3
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を養う。				
教科書	なし	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深め、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- (2) 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。
- (3) 公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高める。
- (4) 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 必要ありません。
- (2) 授業について
 - ア 準備等については、全員で協力して行います。
 - イ 体操については、生徒が輪番制で行います。
- (3) 復習について
 - ア 必要ありません。

〈学習アドバイス〉

- 目標を持ち、意欲的に取り組もう。
- 先生の指示に従い、怪我の無いように取り組もう。
- 全員で楽しみながら、技術を向上させよう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けることができる。
②思考力・判断力・表現力	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料										
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	
①知識・技能				◎	◎					◎	
②思考力・判断力・表現力				◎	◎					◎	
③主体的に学習に取り組む態度				◎	◎					◎	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	○体育理論 ○体づくり運動	○オリエンテーション ○スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方 ○体ほぐしの運動 ○体力を高める運動	①体育理論の各学習内容について理解し、知識を身に付けようとしている。 ②自分の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫している。 ③体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動を行おうとしている。
	○新体力テスト	○握力・上体起こし・長座体前屈 反復横とび・持久走 20mシャトルラン・50m走 立ち幅とび・ハンドボール投げ	③記録の向上を図るなど、意欲的に取り組んでいる。互いに協力して練習や測定を行おうとしている。
5	○器械運動	○マット運動・跳び箱	①自己の能力に応じた技を選択し、その技の習得や向上を図る。 ③自己の課題に応じ、練習を工夫し、技が円滑にできるようになる。
6	○陸上競技 ○球技	○短距離走、長距離走、島民大運動会種目 ○バドミントン	①公正な態度や安全に留意して練習やゲームをしようとしている。 ①チームの課題や自分の能力に応じて、各種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができています。 ②チームの課題や自分の能力に応じた課題を設定し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。 ③各種目の特性に関心を持ち、楽しさを味わえるよう、チームにおける自分の役割を理解して取り組もうとしている。
7 8	○ダンス	○よさこいソーラン	①リズムの特徴をつかみ、楽しく踊る。 ②作品を作り上げた充実感を味わう。 ③互いに協力し合いながら、楽しく取り組んでいる。
9	○球技	○ソフトボール（体協ソフトボール大会） ○バレーボール	①チームの課題や自分の能力に応じた課題を設定し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。
10 11 12		○フットサル ○バドミントン（体協バドミントン大会） ○卓球（体協卓球大会）	②各種目の特性に関心を持ち、楽しさを味わえるよう、チームにおける自分の役割を理解して取り組もうとしている。 ③チームの課題や自分の能力に応じて、各種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができています。
1 2 3		○ミニバレーボール（体協ミニバレー大会） ○バスケットボール	公正な態度や安全に留意して練習やゲームをしようとしている。

※【知識・技能】→①、【思考力・判断力・表現力】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③として表現しています。

科目名	保健	学年	1	単位数	1
科目の目標	生涯にわたって健康的で豊かな生活を営むために、各ライフステージにおいてどのようなことに気をつけ実践していかなければならないかを学び、環境問題などに対しても個人や地域社会の役割、さらには国や国家間での役割などを正しく理解し、実践していく態度と精神を養う。				
教科書	現代高等保健体育	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

2 学習の方法

(1) 予習について

ア 必要ありません。

(2) 授業について

ア 授業開始前に、授業準備をしましょう。

(3) 復習について

ア 考査は、前期末考査と後期考査の2回あります。

教科書の内容を確認し理解することが大切です。

〈学習アドバイス〉

- 知識の積み上げのみを目的とした教科ではありません。身につけた知識を生活に活かし、豊かな生活をおくることができるよう理想的な生活習慣に目を向けていきましょう。
- わが国の平均寿命は世界の最高水準にあり、急激に高齢社会をむかえています。高齢者になっても健康的で生きがいのある生活をおくれるよう、若い時期からの健康づくりに目を向けていきましょう。「健康寿命」が延びる社会環境を築いていきましょう。
- 健康・安全に関しては先代の人々のいろいろな苦勞や経験をもとに、知恵と努力によって改善・対策が成されてきています。それらを知識として自分の生活に活かし、新しい発想や発見につなげていきましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	保健に関する基礎的な知識を身に付け、その役割について理解できる。
②思考力・判断力・表現力	保健について思考を深め、その活用方法を適切に判断し、効果的な利用を工夫できる。
③主体的に学習に取り組む態度	保健についての関心を持ち、主体的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料										
	定期考査	単元テスト	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ノート	ワークシート	討議	
①知識・技能	◎		○		◎			○	○	◎	
②思考力・判断力・表現力	◎		○		◎			○	○	◎	
③主体的に学習に取り組む態度	◎		○		◎			○	○	◎	

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	1 単元 現代社会と健康	オリエンテーション	①我が国の死亡率, 受療率, 平均寿命, 健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について, 理解したことを言ったり書いたりしている。
5		1 健康の考え方と成り立ち	②健康の考え方について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。
6		2 私たちの健康のすがた	③健康の考え方について, 課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
		3 生活習慣病の予防と回復	①生活習慣病などの予防と回復には, 個人の取組とともに, 健康診断やがん検診の普及, 正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。
		4 がんの原因と予防	②生活習慣病などの予防と回復について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。
7		5 がんの治療と回復	③生活習慣病とその予防について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
		6 運動と健康	①喫煙や飲酒は, 生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること, 喫煙や飲酒による健康課題を防止するには, 正しい知識の普及, 健全な価値観の育成などの個人への働きかけ, 及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。
8		7 食事と健康	②喫煙, 飲酒, 薬物乱用の防止について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。
		8 休養・睡眠と健康	③喫煙, 飲酒, 薬物乱用について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
9		9 喫煙と休養	①精神疾患は, 精神機能の基盤となる心理的, 生物的, または社会的な機能の障害などが原因となり, 認知, 情動, 行動などの不調により, 精神活動が不全になった状態であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。
		10 飲酒と健康	②精神疾患の予防と回復について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。
10	11 薬物乱用と健康	③精神疾患の予防とその回復について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	12 精神疾患の特徴	①感染症は, 時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け, 発生や流行に違いが見られることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	
11	13 精神疾患の予防	②現代の感染症とその予防について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。	
	14 精神疾患からの回復	③現代の感染症とその予防について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
12	15 現代の感染症	①健康を保持増進するには, ヘルスプロモーションの考え方に基づき, 適切な意思決定や行動選択により, 疾病等のリスクを軽減することについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	
	16 感染症の予防	②健康の考え方について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。	
1	17 性感染症・エイズとその予防	③健康の考え方について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	18 健康に関する意思決定・行動選択	①事故の発生には, 周りの状況の把握及び判断, 行動や心理などの人的要因, 気象条件, 施設・設備, 車両, 法令, 制度, 情報体制などの環境要因などが関連していることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	
2	19 健康に関する環境づくり	②安全な社会づくりについて, 安全に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。	
	1 事故の現状と発生要因	③安全な社会づくりについて, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
3	2 安全な社会の形成	①適切な応急手当は, 傷害や疾病の悪化を防いだり, 傷病者の苦痛を緩和したりすることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	
	3 交通における安全	②応急手当について, 安全に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。	
4	4 応急手当の意義とその基本	③応急手当について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	5 日常的な応急手当		
5	6 心肺蘇生法		

※【知識・技能】→①、【思考力・判断力・表現力】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③として表現しています。

科目名	英語コミュニケーションⅠ		学年	1	単位数	3
教科書	COMET English CommunicationⅠ（数研出版）	副教材	COMET ベーシックノート（授業用ノート）（数研出版） COMET 基礎文法定着ドリル（数研出版） 夢をかなえる英単語 新コメタンO（アルク） エースクラウン英和辞典 第3（三省堂）			

科目の目標	<p>1 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。</p> <p>2 目的や場面、状況などに応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。</p> <p>3 外国語の背景にある文化に対する理解を深め自律的にコミュニケーションを図ることができる。</p>
-------	---

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、目的や場面、状況などに応じて適切に活用している。
②思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、英語で必要な情報や考えなどを的確に理解している。 英語で読んだり聞いたりした情報を活用して、適切に伝えたいことを伝えている。
③主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化を理解し、英語での情報や考えの理解、発信を主体的に行っている。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	定期 考査	パ ^o フォー ム ス ^テ ス ^ト	小テスト	実技 実習	授業中 の活動	提出 課題	ワーク	休業中 課題
①知識・技能		◎		○				○	
②思考・判断・表現		◎	◎	○	◎		○	○	
③主体的に学習に取り組む態度		○	◎	○		○	○	○	○

1 学習の目標

- (1) 本文を読んだり聞いたりして、必要な情報を的確に理解しまとめることができる。
- (2) 与えられたテーマについて、自分の考えや意見を書いたり、話したりすることができる。
- (3) 学び直しを通じて、基礎的な知識の定着を図り、その知識を活用することができる。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - 基本的には不要です。必要な時は指示をします。
- (2) 授業について
 - 授業は基本的に英語で行います。
 - 授業は教科書とノート、プリント（ワークシート）主に使って行います。英和辞書も使います。
 - ペア・グループでの発表や、自分の意見をまとめて発表する機会があります。積極的に取り組みましょう。
 - 単語帳の学習を定期的に行います。
- (3) 復習について
 - 教科書の英文を覚えてしまうくらいに何度も声に出して読むことが一番復習になります。
 - 授業で扱ったプリントの見直しや、ワークブックに自主的に取り組むのもおすすめします。

〈学習アドバイス〉

- 普段、自習する際は復習に力を入れましょう。教科書の音読がおすすめです。
- 中学校までに学んだ内容で不安なこと、わからないことがあれば教えて下さい。サポートします。
- 授業外では自分の実力や進路希望に合わせて、+αの勉強に取り組んでみましょう。実力を試すために検定試験を積極的に受けてみましょう。
- 「自分の意見を伝えること」「相手の意見に耳を傾けること」を大切にしてください。

3 授業計画 ①②③

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	Get Ready! ①~④	・自己紹介、他己紹介、好きなキャラクターの紹介、友だちに質問する	①アルファベットで英単語の読み書きができる。英和辞書を適切に活用することができる。 ②③自己紹介、他己紹介、好きなキャラクターの紹介、友だちに質問することができる。
5	L.1 What Did You Do in Japan?	・海外からの旅行者が日本での経験を旅行サイトの掲示板に投稿する	①②過去形を活用して、日記を書いたり、思い出に残る経験について発表できる。 ②③各投稿者の日本での体験について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。
6	L.2 When Do You Feel Happy?	・ダイキがクラスメートに自分が熱中しているダンスについて話す	①②ダイキが熱中していることやその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ②③進行形を用いて、きのうの夜8時ごろにしていたことについて伝えあう技能を身につけている。
7	L.3 Onigiri Goes Overseas	・日本のおにぎりの海外での人気について、ハルカが学校新聞に記事を書く	①②助動詞を用いて、自分ができることについて伝えあう技能を身につけている。 ②③おにぎりの海外での人気とその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。
8	L.4 Pictograms	・東京五輪をきっかけに世界でも一般的になったピクトグラムについて、リョウタがスピーチをする	①②to-不定詞を用いて、今週末にやりたいことについて、正しい英文を書く技能を身につけている。 ②③ピクトグラムに関するクイズと回答のやりとりを聞き、必要な情報や概要・要点を捉えている。
9	L.5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler	・病院で子どもたちを癒すファシリティドッグの日本初のハンドラー、森田さんへのインタビュー	①②動名詞を用いて、この前の日曜に自分が楽しんだことについて伝えあう技能を身につけている。 ②③ファシリティドッグやハンドラーの仕事について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。
10	L.6 Convenience Stores: Keys to Their Success	・コンビニが商品を売るための工夫について、ハルカが研究発表を行う	①②that節を用いて、身近な人の印象・感想について、正しい英文を書く技能を身につけている。 ②③コンビニエンスストアの成功のかぎについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。
11	L.7 High School aquarium	・高校で水族館を運営する水族館部の生徒へのインタビュー	①②現在完了形を用いて、自分のお気に入りのものについて伝えあう技能を身につけている。 ②③高校の水族館部の活動について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。
12	L.8 Smart Farming	・スマート農業に関するウェブサイトの記事	①②受け身を用いて、好きな本や映画などの作品について、正しい英文を書く技能を身につけている。 ②③スマート農業について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。
1	L.9 Food Waste	・食品廃棄の問題について、ダイキが学校新聞に記事を書く	①②比較表現を用いて、日本でいちばんのものについて伝えあう技能を身につけている。②③食品廃棄の問題について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。
2	L.10 William and His Windmill	・電気もない貧しいアフリカの農村で、独学で発電のための風車を作った少年ウィリアム・カムクワンバの実話	①②関係代名詞を用いて、興味のある人物について、正しい英文を書く技能を身につけている。 ②③ウィリアム・カムクワンバが成し遂げたことについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。

年次目標

できること	ALT と日常会話	天売島で観光案内 / 海外でホームステイ		海外高校参加 / 大学進学
科目(学年)	英語会話(3年生・選択)			
	コミュニケーション英語Ⅱ(3年生)			
	コミュニケーション英語Ⅱ(2年生)			
	英語表現Ⅰ(2年生)			
英検目安	3級～準2級	準2級	準2級(～2級)	2級～
CEFR 目安	A1	A2.1	A2.2	B1
Reading 読むこと	身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)に関する文章を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化紹介などの、説明文を理解することができる。	まとまりのある説明文の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事などの要点を理解することができる。 平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。
Listening 聞くこと	教科書の内容を意味がとれるように間をおきながら、ゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。	日常生活での話題や簡単な説明・支持を理解することができる。	日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる。
Writing 書くこと	簡単な語や基礎的な表現を用いて、自分に関する身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 and、but、becauseなどの簡単な接続詞を用いて、まとまりのある文章で自分の意見を書くことができる。	読み聞きした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	日常生活に関わりのある社会問題などについて、自分の意見を含めて、現状をまとめたり、基本的な内容を伝えることができる。
Speaking (Presentation) 話すこと (発表)	前もって発話することを用意した上で、身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な表現を用いて、意見を言うことができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピック(学校や地域など)について短い話をすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の考えややってみたことを、理由を挙げて短く述べることができる。	自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、馴染みのあるトピックや自分に興味のある事柄について語るすることができる。
Speaking (Interaction) 話すこと (やりとり)	自分に関する身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)に関して、はっきり話されれば、学んだ語や基礎的な表現を用いて、簡単な意見交換をすることができる。	補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。 単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、①意見や気持ちのやりとりや、②自分の意見を伝えること、③物や人を比較することができる。 駅・店・郵便局などで、学んだ語や表現を用いてやり取りがすることができる。	母語話者同士の議論に加われないこともあるが、自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる。

科目名	家庭総合	学年	1	単位数	2
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
教科書	未来へつなぐ家庭総合365 (教育図書)	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技能を習得する。
(2) 習得した知識や技能を、自己の生活の中に積極的に取り入れる。

2 学習の方法

- (1) 予習について
ア 必要ありません。
(2) 授業について
ア 授業開始前に、授業準備をしましょう。
(3) 復習について
ア 習得した知識や技能を積極的に実生活に取り入れましょう。

〈学習アドバイス〉

- 知識の積み上げのみを目的とした教科ではありません。身につけた知識を積極的に自己の生活の中に取り入れていきましょう。
- 自己の将来を考え、それぞれの技能がどのような場面で必要になるかを考えながら様々な実習を通して技能を習得しましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	家族・家庭、衣食住消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。
②思考力・判断力・表現力	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考慮したことを根拠に基づいて、論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養うことができる。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料										
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワークシ ート	討議	
①知識・技能	◎			◎	○	○		○	○	○	
②思考力・判断力・表現力	◎			◎	○	○		○	○	○	
③主体的に学習に取り組む態度	◎			◎	○	○		○	○	○	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	A 編 第1章 生涯の生活設計 1	1 人は一生発達する。 2 これからの人生に何が起こるか 3 人生の課題を解決しよう	①②③自分たちはライフステージにおける青年期にいることに気づく。各ライフステージの特徴と課題を理解する。私たちは生涯発達し続ける存在であることを理解する。
5	第2章 青年期の自立と家族・家庭	1 自立への一歩を踏み出そう 2 家族・家庭って何？ 3 将来の自分と家庭を想像する	①②③青年期とはどのような時期なのかを知り、青年期に必要な自立について考える。家族・家庭とは何かを、様々な観点から考えて自分なりの価値観を築く。家庭生活を支える基本的な法律について理解する。
6	第3章 子どもの生活と保育	1 子どもはどう生まれ育つ？ 2 子どもとどうかかわろう？ 3 これからの子育てとは？	①②③子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を知り、子どもにとって良い環境について考えて自分なりの意見をもつ。親の役割や愛着の大切さ、生命の尊さ、子どもを生み育てることの意義を学ぶ。社会全体で子育てを支援し、子育ての環境整備を行うことの重要性を理解する。
7			
8	第4章 高齢期の生活と福祉	1 高齢期ってどういう時期？ 2 高齢者とふれ合ってみよう 3 高齢化する日本を生きる	①②③高齢期の心身の特徴を知り、高齢期に多い疾病について理解する。高齢者を支える基本的な制度やしきみについて理解する。
9	第5章 共生社会と福祉	1 共生社会って何だろう 2 ノーマライゼーションとは	①②③自助・互助・共助・公助について理解する、社会保障制度や公的年金制度について理解する。共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え、工夫する。
10			
11	B 編 第1章 食生活と健康	1 なぜごはんを食べるの？ 2 私たちは何を食べているの？ 3 安全に食べよう 4 健康に食べよう 5 おいしく食べよう 6 これからも食事を楽しむために	①②③食事と健康とのかかわりや、人の一生における食事の役割について理解する。日常用いられる食品に含まれる栄養素の種類や機能、おもな食品の特徴について理解する。安全や健康の観点から、食品を適切に選択したり保存したりする方法について理解する。食事摂取基準について理解し、各栄養素の必要量についてのイメージを身につける。私たちの体にとっての水の大切さを理解する。年齢、性別、宗教など様々な背景や考え、相手に配慮した献立について考えることができる。調理の基本的な技術を身につけ、安全や衛生面に配慮した調理ができるようになる。料理の盛り付けや配膳、食事のマナーの基本を理解する。食品ロスなど具体的な問題点から、現代の食生活の問題や課題について考える。日本の食文化を理解し、私たちが食生活の伝統を引き継ぎ、新しくを創造する主体であることを認識する。
12			
1			
2			
3			

※【知識・技能】→①、【思考力・判断力・表現力】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③として表現しています。

科目名	情報 I	学年	1	単位数	2
教科書	高校情報 I Python				

科目の目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。
-------	--

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するための技能を身に付け、効果的にコミュニケーションを行っている。 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するための知識を身に付け、情報の特徴と情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響を理解している。
②思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報の特徴と情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響について、思考を深め、適切に判断し表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	情報の特徴と情報化が社会に果たす役割や及ぼす影響に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、情報機器や情報通信ネットワークを活用し、情報社会に積極的に参画しようとする。 積極的に学習に参加し、自ら学習に取り組む姿勢が表れている。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	評価項目											
		定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ー ト	ノート	ワー ク シ ー ト	討議	学習 課題	休業中 課題
①知識・技能			○	○	○	○	○	○		○		○	
②思考・判断・表現			○	○	○	○	○	○		○		○	
③主体的に学習に取り組む態度			○	○	○	○	○	○		○		○	

1 学習の目標

- (1) 情報化が社会に及ぼす影響を理解し、望ましい情報モラルを身に付ける。
- (2) 情報機器やネットワークを適切に活用し、情報を収集、処理、表現する。
- (3) 効果的にコミュニケーションを行うために必要な知識と技能を習得する。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 普段の生活の中で、情報が社会に与えている影響に関心を持ってみましょう。
- (2) 授業について
 - ア 教科書に沿って、ワークシート・プリント等を使って進めます。
- (3) 復習について
 - ア ワークシート・プリント等の見直しや練習問題を通じて、知識を確実なものにしましょう。

〈学習アドバイス〉

- 身近な問題やニュースと関連付けて授業を受けるとより理解を深めることができます。
- 現代社会の生活の中で役立つことを学びます。自分の身を守るため、生活を豊かにするために学習に励みましょう。

3 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	1章 情報社会	01 情報と情報社会	①②情報社会の知識・技能を行うことができ、 ・思考・判断・表現をすることができる。 ③情報社会について主体的に取り組む姿勢が みられる。
5		02 問題解決の考え方 03 法規による安全対策 04 個人情報とその扱い 05 知的財産権の概要と産業財産権 06 著作権	
6	2章 情報デザイン	07 コミュニケーションとメディア	①②情報デザインの知識・技能を行うことができ、 ・思考・判断・表現をすることができる。 ③情報デザインについて主体的に取り組む姿勢が みられる。
7		08 情報デザイン・プレゼン 09 WEB ページ・情報デザイン	
8	3章 デジタル	10 デジタル情報の特徴	①②デジタルの知識・技能を行うことができ、 ・思考・判断・表現をすることができる。 ③デジタルについて主体的に取り組む姿勢が みられる。
8		11 数値と文字の表現 12 演算の仕組み 13 音の表現 14 画像の表現 15 PC の構成と動作 16 PC の性能等	
9	4章 ネットワーク	17 ネットワークとプロトコル	①②ネットワークの知識・技能を行うことができ、 ・思考・判断・表現をすることができる。 ③ネットワークについて主体的に取り組む姿勢が みられる。
10		18 インターネットの仕組み 19 WEB ページ閲覧とメール 20 情報システム 21 データベース 22 データベースの仕組み 23 個人による安全対策 24 安全のための情報技術	
11	5章 問題解決	25 データ収集・整理	①②問題解決の知識・技能を行うことができ、 ・思考・判断・表現をすることができる。 ③問題解決について主体的に取り組む姿勢が みられる。
12		26 ソフトウェアを利用した処理 27 統計と尺度 28 時系列分析と回帰分析 29 モデル化と趣味レーション	
1	6章 プログラミング	30 アルゴリズムとプログラミング	①②プログラミングの知識・技能を行うことができ、 ・思考・判断・表現をすることができる。 ③プログラミングについて主体的に取り組む姿勢が みられる。
2		31 プログラミングの基本 32 配列 33 関数 34 探索プログラミング 35 整列プログラム	
3			

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。

科目名	水産海洋基礎	学年	1	単位数	1
教科書	水産海洋基礎（海文堂）	副教材	なし		

科目の目標	水産や海洋に関するきそてきな知識と技術を習得させるとともに、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解する。
-------	--

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、水産や海洋に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
②思考・判断・表現	水産や海洋に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、水産業や海洋関連産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	水産や海洋に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	評価項目											
		定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ー ト	ノート	ワーク シート	討議	学習 課題	休業中 課題
①知識・技能					◎		○	○					
②思考・判断・表現					◎	○	○	◎					
③主体的に学習に取り組む態度					◎	○		○					

1 学習の目標

- (1) 水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を育成する。
- (2) 地域の産業を体験し、水産資源の有効活用と加工技術の習得により身の回りの環境について考える。
- (3) 課題を設定し、問題解決能力を科学的視点から取り組み地域産業の水産の理解を深める。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ア 基本的には必要ありません。
- (2) 授業について
 - ア 水産実習は原材料の下処理から袋詰めまでを行います。
 - イ 課題研究では研究活動として調査・実験や、発表の準備・練習を行います。
- (3) 復習について
 - ア 水産実習で身に付けた魚の下処理方法などを、実際に家でも試してみましょう。

〈学習アドバイス〉

- 水産実習では怪我や火傷に注意するとともに、服装や清掃など衛生管理に気を付けながら加工を行きましょう。
- 課題研究では、話し方や見せ方などの、プレゼンテーションの向上を意識しながら取り組みましょう。

3 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	水産オリエンテーション 水産実習に関する食品衛生	食品衛生講習 食品・製造・環境などに関する講義	④食中毒などの事故を防ぎながら、高い品質の食品を製造する方法を身につける。 ④水産学における基礎知識を理解する。
5	課題研究に関する講義		
6		ウニ剥き・秤量・缶・加圧殺菌・ラベル貼り・レポートまとめ	③ウニの処理法や缶詰作りの方法を習得する。 ①積極的に実習に参加し、協調性を養う。
7			②これまで学んできた知識を活用して水産及び天売地域の課題について考えまとめる。
9	ウニ缶詰 課題研究	水産に関する課題研究	
10	実習準備	下処理・調味・金網上げ・パック詰め レポートまとめ	
11	タコ燻製	マキリ研ぎ 共同作業所清掃 下処理・調味・金網上げ・パック詰め レポートまとめ	③安全面に考慮しながら、正しくマキリを研ぐことができる。 ①衛生面に十分配慮し、積極的に清掃を行う。 ③タコの処理法や燻煙がけの方法を習得する。 ①積極的に実習に参加し、協調性を養う。

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。

科目名	天売学	学 年	全学年	単位数	1
科目の 目 標	天売島の歴史・文化・産業及び自然について学ぶことにより、郷土を愛する心を育成し、地域の発展を担う人材を育成する。				
教科書	なし	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 天売島についての知識を、歴史・文化・産業・自然等の視点から深めます。
(2) 課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む力を身に付けます。

2 学習の方法

- (1) 予習について
ア 基本的には必要ありません。
(2) 授業について
ア 資料を用いながら講義を行います。
イ 学習したことをClassiに入力し、ポートフォリオを作成します。
(3) 復習について
ア 発表資料をまとめる前には、1年間でのどのようなことを学習したか資料を見直しておきましょう。

〈学習アドバイス〉

- 最後の授業は1年間天売学で学んだことを発表します。発表資料の作成に困らないよう、講義の際に配られる資料だけでなく、講師の先生のお話で重要だと思った部分をメモしながら授業を受けましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	・天売島の郷土文化について学び、島の現状について総合的に理解している。 ・島の歴史・文化・自然について理解するための技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	・資料等を整理し、島について客観的に判断して自分の考えを他者へ伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	・天売島について興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付けている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

材料 観 点	評 価											
	定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発 言 発 表	作 品	資 料 作 成	ノ ー ト	Classi	討 議	学 習 課 題	休 業 中 課 題
①知識・技能							○		○			
②思考・判断・表現				○	○		○		○			
③主体的に学習に取り組む態度				○	○		○		○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	島内清掃天売クリーン作戦	天売の環境について	①天売の自然や環境問題について理解している。 ③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。
6	天売の伝統文化（実習）	伝統文化の創造について（天売太鼓）	①天売太鼓を通じて伝統文化の創造と継承を図ることができる。 ②実技・実演を通して伝統文化の表現ができる。
10	天売の自然（実習・講義）	天売の野鳥や自然環境について	①天売の自然を学習し、野鳥を取りまく環境について理解している。
11	天売体育協会主催 バドミントン大会への参加	地域の特性や課題について	③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。
	天売の未来Ⅰ（実習）	これからの天売について（発表資料作成）	②天売の現状の課題や解決方法を考える事ができる。
12	天売の未来Ⅱ（実習）	これからの天売について（発表資料作成）	②天売の現状の課題や解決方法を考える事ができる。
	天売の未来Ⅲ（発表）	これからの天売について（発表）	②これまでの学習や資料をまとめ、自分の考えを他者へ伝えることができる。
1	天売体育協会主催 ミニバレー大会への参加	地域の特性や課題について	③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。